



医療法人社団友仁会

## 赤坂見附前田病院

# 都心の赤坂で歴史を重ねてきた名門病院が 漸く独自のニーズに適った電子カルテを導入。 既設ITと連携したシステムでさらなる成長へ

1927年の開業以来、約1世紀、都心部の医療を支えてきた「赤坂の前田」は、斯界では余りにも有名である。同院はかねてより、独自開発のIT化に積極的に取り組んできたものの、電子カルテシステムだけは未導入であった。それは、同院の規模を含めさまざまな条件によるものだったが、満を持して2020年6月に初導入が果たされた。今般の例は、未だ順調とはいえぬ中小規模施設の電子カルテシステム導入において、大いに参考になるのではないかと。4代目病院長の前田祐助氏と、同氏を支える看護スタッフ3名に、同システム構築の経緯とその有用性を聞いた。

医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院  
病院長

### 前田祐助氏に聞く

——赤坂見附前田病院の沿革と概要からお聞かせください。

当院は、95年前に曾祖父の前田友助が、ありふれた病気を的確に治す<sup>※1</sup>という理念の下、大学病院の技術と、開業医の親切さを併せ持つ独自の病院の創造を目指して開業しました。

祖父の前田昭二、父の前田京助と代々、この理念を継承しながら地域に根差した医療を続け、2021年に私が4代目の病院長として就任しました。

診療体制としては、常勤医が3名、非常勤医が12名、看護師が約30名おりますが、スタッフの世代交代が進み、若いスタッフが多いこともあり、その分精力的に業務に当たっています。

病床数は、人間ドック3床を含む59床体制ですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあって患者数は若干減っており、入院患者数は1日20〜30人を維持しているところです。一方、外来患者数は1日150〜200人を数えます。当院の特徴として、外来は完全予約制にしております。そのため、待合室が込み合うこともなく診察ができるので、患者さんからはご好評をいただいております。

——診療の特徴として、他にどのような点が挙げられますか。

当院では、地域のかかりつけ医としての役割を果たすことを目指しています。病気の早期発見・早期治療を目的とした人間ドック、さらには企業健診、港区の公的健診も担当するなど、予防医学にシフトした取り組みを進めています。

診療の具体的特徴としては、今でこそ当たり前の検査になりましたが、内視鏡検査に早くから取り組んできたことが挙げられます。父の京助は、内視鏡の世界的な権威である新谷弘実先生（※1）に師事し、下部内視鏡検査を早期より民間施設で開始した実績があります。現在、内視鏡検査は年間2200件ほど実施しています。

なお、当院は日本国内はもとより、米国・欧州・アジア各国など、世界中から患者さんが集まります。また、当院を信頼され、曾祖父の時代からの患者さんや、その子や孫の方々も来院するケースもあります。

このように地域に根差し、1世紀近く診療を行ってきた伝統を生かしながら、最先端の医療を提供できるよう励んでいます。

——2020年6月の電子カルテシステム導入の経緯をお聞かせください。

当院では、実は電子カルテシステム導入以前から、医療のIT化に積極的に取り組んでおります。医事システムや画像

ファイリングシステムに加え、独自に開発したオーダリングシステムや予約システム、健診システムなどを使用してきました。

電子カルテシステム導入についても検討を続けてきましたが、技術的に独自開発が困難な上、コスト面でも、当院のような200床以下の病院で電子カルテシステムを導入する負担は決して小さくないことから、導入の必要性については、賛否が分かれていました。

しかし、ここ数年で、規模によらず多くの病院に電子カルテが普及し、今後若いスタッフに世代交代を進めていく中で、電子カルテを導入しなければ優秀な人材も集まってこないと考えるようになり、導入を決めました。

新型コロナウイルス感染症の流行は計算外でしたが、電子カルテシステムベンダ

であるパシフィックメディカル社の親身なサポートにより、無事に稼働にこぎつけることができました。

——電子カルテシステム「MALL」選定に至った理由をお聞かせください。

いくつか候補が挙がっていたのですが、既存の、当院独自のオーダリングシステムや画像データのファイリングシステムとの連携が可能であることや、導入施設での使用継続率の高さを重要視するとともに、コスト面でも、リースナブルであることを条件に選定を進めました。結果、これらの条件をクリアしていたのがパシフィックメディカル社の「MALL」でした。特にコスト面では、病床数ごとに価格設定が異なるので、規模の小さな当院では、かなり抑制されたコストでシステムを導入・運用できる点を高く評価しました。

——「MALL」の優れた点についてお聞かせください。

総合病院向けで、機能が多すぎるパッ



前田祐助 (まえだ・ゆうすけ)氏

2011年慶應義塾大学医学部卒。慶應義塾大学一般消化器外科、東京都済生会中央病院を経て2020年4月より医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院勤務。2021年9月より同院 病院長就任、現在に至る。藤田医科大学客員講師、日本外科学会認定外科専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本医師会認定産業医。Intuitive社によるロボット手術のcertification取得。

※1: 世界で初めて大腸内視鏡によるポリープ切除手術に成功している内視鏡の世界的な権威。

ケーJ型のものとなり、電子カルテシステム「MALL」は、2600種類以上の設定項目から、当院の運用に必要な機能をコンパクトにまとめることで、たいへん効果的、無駄のないシステムを構築することが可能です。カルテ画面はユーザー毎に設定を変更できる上に、オーダーのセッ トやマスタの管理が容易である点も好ましいですね。当院は非常勤医が多いので、彼らが電子カルテシステムにすぐ習熟できるか若干心配でしたが、事前に非常勤医からの要望を聞き取るなど、入念に準備した結果、特に問題なく操作法に慣れ てもらっています。



電子カルテ端末を操作する前田祐助氏。電子カルテシステム「MALL」はユーザー毎に画面のレイアウトを設定でき、操作しやすくとスタッフから高い評価を得ている。

具体的な機能への評価としては、レポートや文書作成の機能が充実しています。当院では患者さんの紹介や逆紹介など他施設との連絡を取り合うことが多いことから、このような機能が充実している点には有難いですね。

当院の仕様に合わせて設定したテンプレートなども便利で、評価しています。

また、様々な部門システムと確実に接続・連携でき、「MALL」起動中にでも他のソフトをストレスなく展開できている点を個人的には高く評価しています。

前述のとおり、当院のオーダーリングシステムは独自開発したもので、当院の運用に特化したシステムであったことから、システム間の連携作業には苦労しましたが、功を奏して現在は大変スムーズな連携が実現しています。これは、パシフィックメディカル社のスタッフの技術力と献身の賜物だと感謝しています。

導入作業は順調でしたか。  
導入時期はコロナ禍の真つ最中で混乱も危惧していたのですが、幸か不幸か、患者数が減少していたこともあり、支障なく導入初期を乗り越えられました。その後、電子カルテシステムを運用してきたこの2年間、大きなトラブルはなく、順調に稼働し続けており、電子カルテシステム導入は成功したと総括しています。

今後は、附属の元赤坂胃腸科クリニックとのシステム連携などを進めていきたいと考えています。

今後の赤坂見附前田病院の展望についてお聞かせください。  
先代から引き継いだ理念を忘れず、ま

## 医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院 電子カルテシステムの導入で病棟における診療記録を電子化 情報共有や医療安全、業務の効率化の向上に大きく貢献

「電子カルテシステム「MALL」を中心に診療情報が一元化されたことで、患者情報の収集など、業務の効率化が図れて便利になった」と話す看護部の

看護部  
上田真莉氏に聞く



「電子カルテシステム「MALL」を中心に診療情報が一元化されたことで、患者情報の収集など、業務の効率化が図れて便利になった」と話す看護部の上田真莉氏。

赤坂見附前田病院は、人間ドック3床を含む計59床の病床を有している。病棟の主任看護師として病棟担当看護師約20名を束ねているのが、主任看護師の上田真莉氏である。上田氏は、同院 病棟での看護体制の特徴をつぎのように話す。

「看護部は、一般的な病院同様、外来と病棟とに担当部署が明確に分かれています。当院は急性期の外科がメインなので、入院される患者さんも消化器外科や整形外科の疾病が多いです。他院からの転院の依頼もありますが、基本的には当院に掛かりつけの患者さんの検査、治療目的の入院がほとんどです。そのような観点から、地域のホームドクター的な役割を果たしている点が大きな特徴と言えます」

電子カルテシステム「MALL」①  
端末さえあればどこでも入力  
独自のチーム医療実践に有用

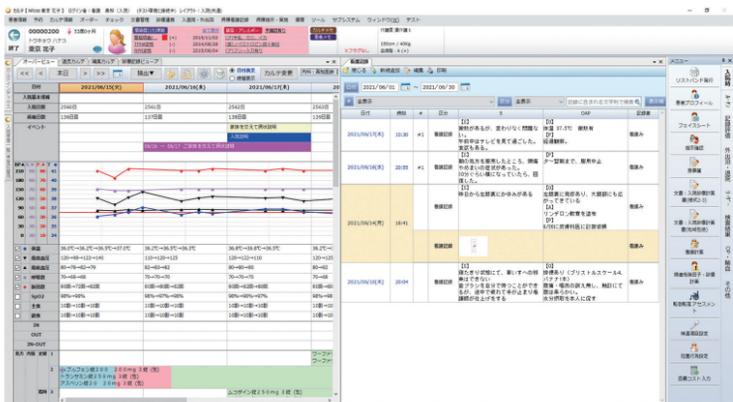
2020年6月の電子カルテシステム「MALL」導入について、上田氏は看護師視点からつぎのように話す。

「電子カルテシステム導入以前は、ドクターカルテ、看護記録、また採血などの検査結果の情報はPCといった具合に、1人の患者さんの診療情報が様々な場所に分散していたことから、情報収集に手間と時間がかかっていました。当然、申し送りや指示、またスタッフ間の連絡も口頭に頼ることが多く、気を遣うことが多々ありました。

それが今では、患者さんの情報は電子カルテシステムを参照することで容易に収集できますし、申し送りや指示も電子カルテシステム上に記録が正確に残せているため、医療安全面でも有益だと感じています。

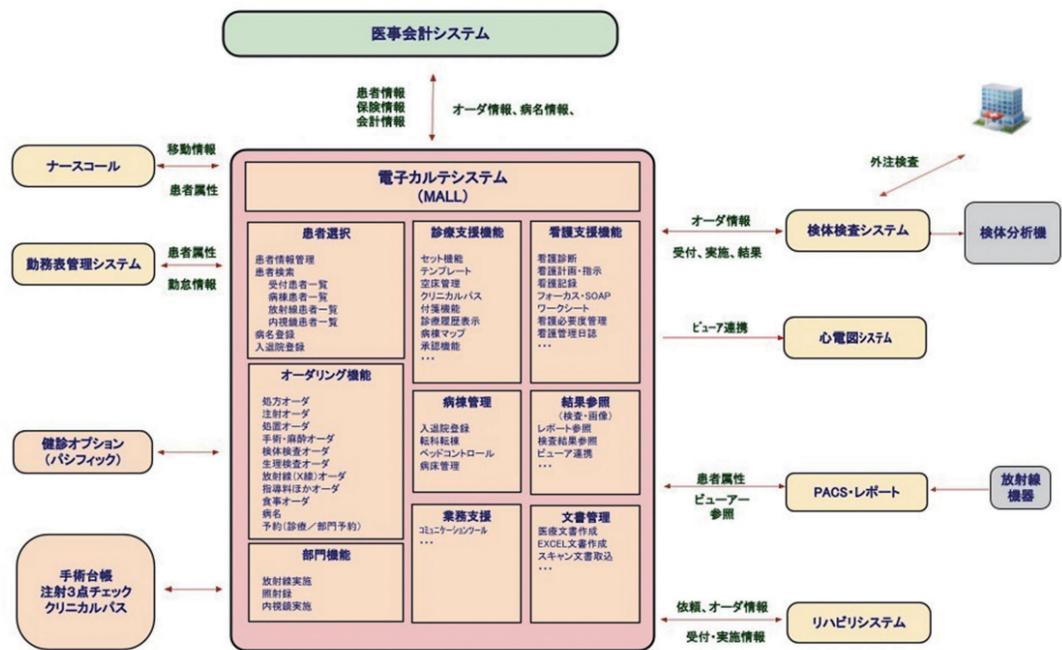
また、従来、指示などは医師が病棟で紙カルテを探して記録する必要がありましたが、電子カルテシステムでは、端末さえあればいつでもどこでも入力することができるので、業務の効率化や、労働負荷の面でも貢献していると思います。

なお、「MALL」への評価ですが、当院の診療に合わせて機能や画面構成が



電子カルテシステム「MALL」の入院記録画面。入院患者に関する診療情報を自由なレイアウトで一覧することができ、医療安全面でも大いに貢献している。

## システム構成図



赤坂見附前田病院の病院情報システム構成図。電子カルテシステム「MALL」を中心に、医事会計システムや画像ファイルシステム等と連携、診療情報の一元化を図っている。

設定されているので、大変扱い易いシステムですね。新しく入職する看護師も、看護業務に携わりながら、2週間もあれば使いこなせているのは優れた点だと感じています」

赤坂見附前田病院は、一人ひとりの患者さんに医師と看護師がチームを組んで向き合う医療スタイルをとっており、電

子カルテシステムはこのような医療を展開する同院にとって、有用なシステムであると上田氏は話す。

「当院は、大規模な病院と異なり、部署毎の、所謂縦割りとは無縁な組織です。看護師は事務の業務を手助けしたり、医師も看護の仕事と一緒にするなど、職員全員が1つのチームとして、診療に当たっています。電子カルテシステムで情報共有できる点は大変便利ですし、医療の質向上に大きく貢献していると思っています」

電子カルテシステム「MALL」②  
親身なベンダ担当の対応力を評価  
順調な稼働とシステム改良を進める

上田氏ら、院内スタッフは、「MALL」のベンダであるパシフィックメディカル社の対応にも満足しているという。「MALL」の導入時には、ベンダ側、つまりパシフィックメディカル社がマスタの整備をある程度行ってくれるなど、当院の要望に積極的に対応してもらい、大変助かりました。

現在も、月に1度は同社の担当者として、システムの課題や、その解決の進捗などを検討する話し合いの場を設けています。同社の担当者やサポートセンターの方も、本当に親身になって対応してくれるのは有難いですね。

今後は、病棟の記録と入退院の管理、予約に関する連携がさらに円滑にできるように、パシフィックメディカル社と共に使いやすいものに改良していきたいと考えています」

■医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院  
円滑な外来業務と院内の情報共有化を実現して業務を効率化  
完全予約制の外来診療にフィットした予約システムも高評価

「Come on」  
医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院  
看護部

篠崎涼奈氏に聞く



「看護師はITに慣れた若いスタッフや、電子カルテシステムの経験があるスタッフが多く、『MALL』の操作にはすぐに慣れることができました」と話す看護部の篠崎涼奈氏

赤坂見附前田病院は、外科、内科をはじめ14診療科を有し、1日150〜200名の外来患者が来院する。外来部門の主任看護師である篠崎涼奈氏は、外来における看護業務を、つぎのように話す。

「外来分野には、オペ室担当を含め6名の看護師と臨床検査技師1名が所属しています。看護師は、他施設同様、外来で医師をサポートしながら、来院した患者さんの看護に当たっています。臨床検査技師も看護チームと一体になり採血や心電図等を担当しています」

電子カルテシステム「MALL」  
ユーザーに合わせた設定も自在  
セット組や画面調整が容易に可能

2020年6月の電子カルテシステム「MALL」導入について、篠崎氏はつぎのように話す。

です。ハイスペックなデバイスで早期発見し、所見があった場合、医師の的確な判断のもと同法人赤坂見附前田病院にて追加検査や治療が迅速にできる点が受診者から高く評価されています。毎年の定期検査や治療情報の共有で、受診者の身体状況を一元的に把握でき、かつ変化や推移が分かり易いことから、永続的に健康管理をさせていただいています」

健診システム①  
一元化された検査予約機能と  
高機能な文書作成機能で効率化

元赤坂胃腸科クリニックでは、独自開発の健診システムを運用していたが、2020年6月の電子カルテシステム導入時に「MALL」に付属する健診システムを併せて導入し、活用している。同システム導入の狙いを、小坂氏は語る。「前身は1994年に設立した会員制の人間ドック施設でした。当時としては全身フルメニユーの検査項目と画像データ、レポートニングシステムは本邦初で、対応するシステムはなかったことから、独自開発によるシステムを運用してきました。今回、赤坂見附前田病院の電子カルテシステムと健診システムの融合により、予約、各種検査の調整もし易く、レポート作成や来院案内などの文書作成も効率化できました」。

以前のシステムでは、CTやMRI、超音波などモダリティ毎に予約画面が異なり予約時間の調整に手間取りました。また、各モダリティは保険診療の患者さんの予約もありますので、多岐にわたる

「電子カルテシステム導入に際しては、外来担当医師から『MALL』に対する要望を聴取し、テンプレートのセット組や画面設定に関する調整を予め行いました。非常勤医からの聴取については、人数が多く、勤務日が限られていることもあり、時間を要し苦労しました」。

さらに、当院外来は完全予約制なので、電子カルテシステムと予約システムとの連携には気を遣いました」

「MALL」の使い勝手について、篠崎氏はつぎのように話す。

「当院は大病院ではないので、紙カルテの方が融通が利くのではと感じる点もありますが、電子カルテシステムが情報共有の点で大きく有利なのは明白です。当院はかかりつけ医として長年通院をされる患者さんが多く、患者情報も膨大になります。診療記録のみならず、受診履歴や家族背景など、貴重な情報がたくさん詰まっています。患者さんからの相談やお問い合わせの際、情報の事前収集を行います。電子化によってこの作業が迅速かつ容易に行えるようになりました」

比較的小さいスタッフが多く、「MALL」の操作習得は問題なかったと篠崎氏は話す。

「看護師の多くは、他社の電子カルテシステムの使用経験を有していましたが、『MALL』はユーザーの好みに合わせた画面構成や設定ができるので、すぐに操作には

人間ドックの検査を、待ち時間なくスケジュールすること特に気を遣っていました。『MALL』と連携した健診システムでは1画面上で各コースに必要な検査予約が分かり易く表示され、予約時間の調整や検査オーダーができ、業務が大幅に効率化されました。それにより、受診者へのレスポンスも迅速になり、より親切で丁寧な受診者対応が可能となった点は、とてもよかったですと感じています」

健診システム②  
電子カルテシステムとの連携により、  
スムーズかつ迅速な情報伝達を実現

病院側の電子カルテシステムとのデータ連携もスムーズになったと小坂氏は話す。

「当クリニックの高く評価されている点は、的確に診断し迅速にフォローアップができることです。健診結果の所見や受診者特性を、病院スタッフに素早く情報

慣れました」

電子カルテシステムの改良  
従来システムとのギャップを埋め  
より効率的なシステム連携を図る

赤坂見附前田病院では、電子カルテシステム導入以前、独自開発の予約システムを使用していた。その変更について篠崎氏はつぎのように話す。

医療法人社団友仁会 元赤坂胃腸科クリニック  
健診システムと電子カルテシステムの連携による相乗効果  
検査予約や文書作成等、業務の効率化と高質な健康管理を実現

元赤坂胃腸科クリニック  
看護部  
小坂菜々美氏に聞く



「健診システムと電子カルテシステムが一体的に運用できるので、人間ドックや健診を受けた受診者の情報をシームレスに運用することができます」と話す看護部の小坂菜々美氏。

赤坂見附前田病院と同法人の元赤坂胃腸科クリニックは、質の高い医療の提供を目指し、2001年にオープンした新世紀型の医療施設である。同クリニックは、消化器内視鏡検査を始め、人間ドックなどを行う自由診療のクリニックであ

「従来使用していたシステムは当院の運用に特化していたことから大変便利でした。その従来システムとの親和性を意識しつつ、それに劣らぬように『MALL』の予約システムも機能設計をしてみました。引き続き予約システムのブラッシュアップと、それと並行して『MALL』と他の部門システムとの連携も、さらに深化させていきたいですね」

り、高度で質の高い医療、細やかなサービスを提供している。人間ドック受診者の担当をしている看護師の小坂菜々美氏は健診事業を、つぎのように紹介する。

「人間ドックには、年間100名以上、健診事業には、港区の健診事業や企業健診を含め、年間200名以上の方が受診されています。コロナ禍の影響により、この数年、受診者数は減少傾向でしたが、ようやく昨年は受診者数がプラスとなり、今年も堅調な推移を示しています」

人間ドックは、20歳代から90歳代まで、幅広い年齢層の方が受診されています。当クリニックの人間ドックは、全身を精査する。ホールボディドックの他に、フリードック」と称する、受診者と医師が相談しながらウィークポイントに合わせて内容をカスタマイズしている点が特徴

提供することが必要不可欠となります。その点、『MALL』が一体型のシステムであるということからデータ連携がスムーズに行うことができ、重複した不要な検査や煩雑な受診準備は削減され、必要な治療までがストレスなく最短で進められます。少数精鋭の利点も生かし、大切な要項はフェイストゥーフェイスで行うことも務めています」

健診システムについて、小坂氏は更なる機能のブラッシュアップを望んでいる。「部門システムと電子カルテ及び健診システムとの連携において改善が必要な点もありますが、電子カルテシステムベンダのパスフィックメディカル社は、保守管理や当クリニックからの要望などに親身に対応してくださるため助かっています。パスフィックメディカル社と一緒に、さらに洗練された誰でも使いやすいシステムを作り上げていきたいと考えています」



健診システムの検査予約画面。CTやMRI、超音波などの検査予約を1画面上から予約することができ、業務の効率化・迅速化を実現している。

医療法人社団友仁会 赤坂見附前田病院

1927年（昭和2年）に開業した『前田外科病院』を嚆矢とする赤坂見附前田病院。95年の歴史と伝統、医療技術に裏打ちされた信頼とブランド力を実績を積んできた著名施設である。5年後に100周年を迎えるが、その目前の昨年、4代目病院長 前田祐助氏が就任し、若手スタッフが率先して最前線に立ちチーム医療を実践している。東京の医療界で広く知られる代々の病院長の写真の提供を受けられたので、ここに紹介する。



初代・前田友助氏と昭二氏



二代・前田昭二氏と京助氏



三代・前田京助氏と祐助氏

理事長：前田京助  
病院長：前田祐助  
住所：東京都港区元赤坂 1-1-5  
病床数：59床（一般56床、人間ドック3床）